



写真1 大原野検出の建物群（北西から）



写真2 南春日町廃寺塔跡（東から）

れた建物群や、下級役人の宅地跡などが検出され、町内の広い範囲の様子を知ることができました。左京六条三坊の周辺では、道路が南や東へ延びる途中でなくなり、実質的な都のはずれということがわかっています。

長岡京は、平安京に遷都されるまでの、わずか10年という短命に終わりましたが、都としてはほぼ完成していたと考えられます。

京都盆地のようす それでは、長岡京が造られた頃の京都盆地の様子はどうだったのでしょうか。

奈良時代、山背国には乙訓郡をはじめ8つの郡がありました。

この時期の住居跡や溝などの遺構は、平安宮内の聚楽遺跡や京科大学構内遺跡、左京区下鴨の植物園北遺跡、山科区の中臣遺跡などで検出されていますが、集落の様相までは解明されていません。

しかし、西京区大原野の最近の調査では、南北7間以上の長大な建物などを含む、これまでにない大規模な建物群（写真1）が検出され、役所などの可能性もあります。周辺には、長岡京遷都とほぼ同時期に造られたと考えられる南

春日町廃寺（写真2）や、大原野神社が位置しており、今後の調査が注目される地域です。

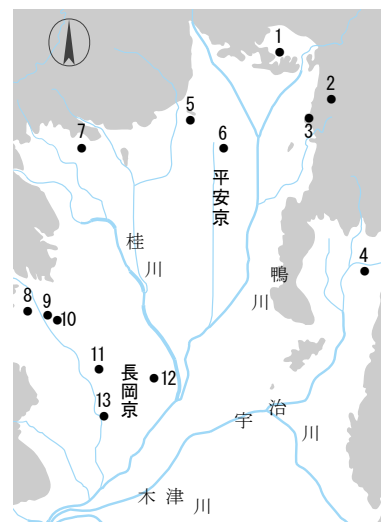
京都盆地内にはこのほか、北野廃寺や北白川廃寺など、それぞれ地元の有力氏族との関わりが深く、飛鳥・白鳳時代に造られた寺院があります。これらの寺跡からは、長岡京時代に作られた瓦が出土しています。なかでも北野廃寺や清涼寺境内からは、長岡京内にあった乙訓寺や川原寺、^{ともおか} 鞍岡廃寺などと同じく、「吉」の字を中心につけた軒瓦が出土しています。『続日本紀』の延暦10年（791）4月18日条には、破損の著しい山背国内の寺々の塔を修復したとの記載があり、天皇の命令による国家的な修復事業があったことを示しています。

長岡京から平安京へ 桓武天皇は、造宮使、藤原種継暗殺事件の首謀者として弟の早良親王^{さむら}を捕え、みずから死に追いやったため、親王の怨霊に悩まされるようになりました。また、2度にわたる大洪水などが原因となって長岡京は廃棄されてしまいます。しかし、次の平安京も、長岡京からそれほ

ど遠くない^{かどの}葛野郡に造られます。葛野郡は渡来系氏族の中で最大の勢力を持ち、早くから京都盆地内の開発を進めた秦氏の根拠地でした。平安宮の大内裏が造られたのは、かつて秦河勝の邸宅があった場所との伝承もあり、また、この地域では同時代の堅穴住居などの遺構も検出されています。

長岡京遷都と、続く平安京への遷都は、卓越した技術力と豊富な財力をもった渡来系氏族の勢力基盤を背景としたものでした。

（西大條 哲）



遺跡位置図

- 1 植物園北遺跡 2 北白川廃寺 3 京科大学構内遺跡
- 4 中臣遺跡 5 北野廃寺
- 6 聚楽遺跡 7 清涼寺境内 8 大原野神社
- 9 南春日町廃寺 10 大原野検出建物群
- 11 乙訓寺 12 川原寺跡 13 鞍岡廃寺